

2004年12月1日

VoIP / SIP 相互接続検証タスクフォース 活動趣意書

1. 名称:

VoIP / SIP 相互接続検証タスクフォース

2. 設立の背景

VoIP (Voice over IP) システムは、家庭、企業、プロバイダのすべての領域において急速に普及し始めているが、ベンダーおよびプロバイダが、それぞれ独自に開発、サービスを提供してきたことから必ずしも相互接続性が確立しているとは言えない状況にある。

VoIP システムが現在の「電話」と同様に本格的に普及し、さらに、VoIP 技術を核にしたマルチメディアサービスの展開が伴い、産業社会活動において広く利用されるためには、ベンダー間のみならず、プロバイダ間で基本的な相互接続性が実現されなければならない。

VoIP システムの相互接続性実現のため本タスクフォースを設立し、技術検証を通してその確立に向けての一助となる事を目指す。

なお、インターネットの需要が急拡大しているアジア地域を初めとする各国各地域との協働体制確立やそれによる種々の関連ビジネス隆盛に向けて積極的に貢献していくことも重視する。

3. 目的

本タスクフォースの活動目的は、以下に示すとおりである。

- (1) SIP を用いた VoIP システム間での相互接続性の確立を、以下の 2 つの環境において実現するための技術的検証を行う。
 - i マルチベンダー環境
 - ii マルチプロバイダ環境
- (2) 相互接続性の確認と評価を行うために必要な以下の環境を整備する。
 - i 最低限の評価仕様ならびに試験仕様 (公開)
 - ii 評価仕様ならびに試験仕様に従った試験評価ソフトウェア (公開配布)
 - iii 相互接続性の確認と評価を行うためのイベントの開催
 - iv 相互接続性の確認と評価を行うためのテストベッド環境の提供
- (3) 上記目的を達成するためにグローバルな協力体制確立とビジネス活動に対して貢献す

る。

(注 1) なお、VoIP 機能を実現するためのシグナリングプロトコルとしては、H.323 と SIP の 2 つが存在するが、本タスクフォースでは、今後の普及が期待される SIP に焦点をあてた活動を行う。

(注 2) ENUM システム等の高度機能も適宜活動の範囲内とする。

(注 3) 相互接続性検証システムの構成

(1) 対象外 :

- TE=TE
- CampusNet=TE

(2) 対象システム

- TE=ISP
- ISP=ISP
- CampusNet = ISP
- CampusNet = ISP{ = ISP=.....ISP = }ISP = CampusNet

(注 4) 対象システムは、大きく、インターネット的な VoIP システム、電話機能と等価な品質を提供する VoIP システムの提供の 2 つが存在する。当面は、インターネット的な VoIP システムをターゲットとする。

4. アウトプット

- (1) VoIP システム評価検証シナリオ
- (2) VoIP システム評価検証ソフトウェア (公開)
- (3) VoIP 関連機器のソフトウェアの品質向上と相互接続性の確立 (ベンダへのフィードバック)
- (4) VoIP システム間での相互接続性の確立 (プロバイダへのフィードバック)
- (5) VoIP 機器のポータビリティの確立 (ベンダ/プロバイダへのフィードバック)
- (6) 国内外技術標準化機関 (IETF、ITU-T、TTC、HATS など) への成果提供・提案

5. 体制

主査 : 江崎浩 (JPNIC 理事、東京大学)

副主査 : 中村修 (慶應義塾大学)、砂原秀樹 (奈良先端科学技術大学院大学)、
石田慶樹 (ETJP)、大江将史 (WIDE)

協力組織 (予定) :

TTC

HATS

IPv6 普及・高度化推進協議会 (サーティフィケーション WG SIP-SWG)

VoIP 推進協議会

VoIP Forum Japan

JGN2

ETJP

事務局：JPNIC、三菱総合研究所

6. 相互接続性検証確認テストベッド

JGN2 との協力体制を確立し、東京都内に常時関連機器を持ち込み、連続的稼働を可能とし、参加組織が自由に相互接続性の確認検証を行うためのテストベッド環境を構築運用する。

当初、大手町 JGN2 リサーチセンタ(KDDI 大手町ビル 21 階)の一部を検証スペースとする予定で、参加組織が同様の相互接続設備の提供や、テストベッド間での相互接続運用を可能とする。

7. 設立発起人

IPv6 普及・高度化推進協議会(V6PC)、株式会社アズジェント、伊藤忠テクノサイエンス株式会社、ENUM トライアルジャパン(ETJP)、岩崎通信機株式会社、インテック・ウェブ・アンド・ゲノム・インフォマティクス株式会社、エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー株式会社、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社、エヌ・ティ・ティ レゾナント株式会社、沖電気工業株式会社、KDDI 株式会社、サンテレホン株式会社、シスコシステムズ株式会社、社団法人情報通信技術委員会(TTC)、情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ) 高度通信システム相互接続推進会議(HATS 推進会議)、砂原秀樹(奈良先端科学技術大学院大学)、ソフトバンク BB 株式会社、株式会社ソフトフロント、社団法人テレコムサービス協会 VoIP 推進協議会、株式会社東芝、中村修(慶應義塾大学)、西日本電信電話株式会社、日本テレコム株式会社、日本電気株式会社、社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)、特定非営利活動法人日本 VoIP フォーラム(VFJ)、株式会社日本レジストリサービス、株式会社ネットマークス、東日本電信電話株式会社、株式会社日立製作所、富士通株式会社、フュージョン・コミュニケーションズ株式会社、株式会社三菱総合研究所、三菱電機情報ネットワーク株式会社、ヤマハ株式会社、WIDE プロジェクト

8. 活動スケジュール案

(1) キックオフ会合：12月1日(水)

準備会合(開催済)：8月11日(水)、10月8日(金)、10月12日(火)、11月24日(水)

(2) 相互接続性確認評価テストベッド

2005年1月頃運用開始

(3) 評価検証仕様

2004年12月

(*) 関連組織との連携を行い、整合性の取れた評価検証仕様とする。

国内関連組織：TTC、HATS、VoIP 推進協議会

国外関連組織：SIPit、IPCC

(4) 評価検証ソフトウェア

2005 年春頃

(5) 相互接続性 確認評価イベント：年 2 回程度

2005 年 2 月

2005 年 6 月 Networld+Interop 東京 2005

9. 活動規約(案)

別紙参照

10. その他

< 準備会合参加組織 >

NTT コミュニケーションズ、ソフトバンク BB、日本テレコム、KDDI、フュージョンコミュニケーションズ、東日本電信電話、西日本電信電話、NTT レゾナント、ETJP、ネットマークス、伊藤忠テクノサイエンス、サンテレホン、NTT アドバンステクノロジー、アジレント、岩崎通信機、シスコシステムズ、沖電気、富士通、東芝、日立製作所、日本電気、ソフトフロント、ヤマハ、JPRS、WIDE プロジェクト、独立行政法人情報通信研究機構、三菱総合研究所、慶應義塾大学、東京大学

以上